

平成20年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会

— 開会挨拶 —



北海道稚内市 市長 横山耕一

皆さんこんにちは、「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」総会を本市で開催をいただきましたことを、まずもって心からお礼を申し上げさせていただきます。

また、全国各地からご出席いただきました皆さま方に、心から歓迎申し上げさせて頂きたいと思えます。ようこそお越しいただきました。

このネットワークの総会を本市で開催いただくのは、平成13年度以来ということでございまして、2回目になるわけでありますけれども、今日は本当にちょっと残念なことがございました。稚内特有の風に見回れて、本来出席頂く予定の利尻・礼文、3町の町長が、船が欠航で来られないということでございます。

このネットワークの趣旨は、まさに北前船が繋いだ海の道、それに位置する各日本海沿岸の港湾を結んでいこうというようなことで発足したわけでありますけれども、利尻・礼文といいますと、稚内もそうなのですから、コンブで有名な街であります。

今日は敦賀の河瀬市長、いらしていただいておりますけれども、最近敦賀にコンブが送られて敦賀の有名なレンガの倉庫で2・3年寝かせていただくということだそうであります。言ってみれば、北前船というのは北海道から海産物、主としてコンブ、帰り船として運ばれたということなわけですが、そのネットワークの趣旨であります北前船が繋ぐ、つむいできたといえますか、そんな元気に活力のあったであろう昔を偲んでこれからも元気になろうということだと思えます。

残念ながら主役の一人であり、礼文・利尻の3町長がお出でになれないことは、誠に残念でありますけれども、お出でいただいた皆さん方でこれからの日本海のにぎわいを、或いは、交流を活発にし

て元気な互いの地域を再生させるために様々な知恵を発揮できればというふうに思っております。

さて、本市は今年市政執行 60 年を迎えることができました。その他にも例えば、丁度今から 200 年前、間宮林蔵が、樺太が島であるということを確認したわけでありまして、そしてまた、その頃はロシアがどンドン南下をして日本に交易を迫るといような時期でありまして、そういう国際的な環境を懸念して、時の田沼意次は北海道蝦夷地を松前藩から幕府の直轄にするといようなことをしております。

そんなことで遠く東北の各藩にこの北海道の蝦夷の防備を命じるといようなことをしたわけでありまして、津軽藩・秋田藩・会津藩あるいは仙台藩、こういったところの藩主達が我が宗谷を含む全道各地の防備にあたった、それから数えてほぼ 200 年と、このよな時期にあたります。

その前に 1600 年代には、この蝦夷とそれから北蝦夷いわゆる樺太との交易を盛んにするために宗谷場所という、いわば商いをする拠点でしょうか、そんな物が置かれました。それを支えたのが本州との交易にあたった北前船だったといことだろうと思ひます。そんな意味で私達が今回こうして皆様方をお迎えできたといのは、その 200 年とい大きな歴史を刻んできた私達の歴史を学ぶ上でも大変な価値のある今回の総会であるといふふうに考え、感じているところでございます。

加えて、今やロシア領になってしまいましたけれど、ロシア・サハリン州の交流、経済交流をもっともっと熱心に展開していこうといふふうに考えております。そんな矢先でもございまして今度はロシア・サハリンに留まらず極東も含めてこの環日本海といいましょうか、そんな交流がこうした議論を進めていただきながら活発になればいいなといふふうに思ひます。

取り分け昨年は、新潟でのこの大会に出席をさせていただきましたけれども、新潟市の市長さんやあるいは敦賀の河瀬市長さん、射水市の市長さんも、俺ら元気だぞと港湾利用の物流の量もだいたい前年比 13%か 4%増えているのだといようなお話を伺って参りました。本当にうらやましく思ひながら我々も何とか、北海道もそういうふうになりたいなと思つたところでありまして、こんな機会にその元気さの由縁を、また、それぞれの地域の皆さん方からお聞かせ願えたらとこのよに思ひしております。

なにわともあれ、海に四方を囲まれたこの日本であります。特にかつて、裏日本などとい、揶揄された地域でありますから、今や 21 世紀は日本海が開くといつてもいいくらいの環境になるのではないかといふふうに期待をしておりますので、そんな元気さをこれから築き上げていきたい、そんなふうに思ひしておりますので、出席いただきました皆さんの様々なご意見を頂けたらと、このよに思ひています。

また、今日は、ロシア出身で現在道新サービスセンター広告営業部に所属されていましてグレーブさんから、「ロシアと日本海沿岸の経済交流について」といまさに私共がこのネットワークで要望する課題に沿ったテーマでお話いただくことになっております。多分貴重な話をお聞かせいただけるのだろうといふふうに期待をしておりますけれども、グレーブさんには、どうぞよろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。

また、たくさん国土交通省あるいは各地方整備局の皆さん方にも出席いただきますけれども、引き続き各地域の港湾整備についてもお力添え賜りますよう心からお願ひをさせていただきますと思ひます。

改めて本大会を本市で開催いただきましたことに感謝申し上げ、お出でいただいた方々を心から歓迎させていただいて、一言、開催地としてのご挨拶にかえさせていただきます。どうもありがとうございます。